

令和 3 年 第 7 回
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和3年6月30日(水)

開会午後3時30分、閉会午後4時5分

II 場所

富山県民会館611号室

III 出席委員

1番 山崎 弘一

2番 鳥海 清司

3番 町野 利道

5番 大西 ゆかり

教育長 荻布 佳子

IV 説明出席者

教育次長 清原 明宏

教育次長 坪池 宏

教育企画課長 松井 邦弘

生涯学習・文化財室長 吉田 学

教職員課長 福島 潔

県立学校課長 佐野 友昭

小中学校課長 水戸 英之

保健体育課長 橋本 隆

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後3時30分、教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

(令和3年5月27日開催の令和3年第6回富山県教育委員会会議録)

会議録閲覧

荻布教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

2 報告事項

(1) 臨時代理について(令和3年6月富山県議会定例会に付議する事案に対する意見に関する件)について

(2) 臨時代理について(令和3年6月富山県議会定例会に付議する事案に対する意見に関する件)について

教育企画課長より説明した。

(3) 令和4年度富山県公立学校教員採用選考検査志願状況について

教職員課長より説明した。

(4) 公立幼稚園の廃止について

小中学校課長より説明した。

3 その他

今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

4 議決事項

議案第22号 富山県青少年自然の家指定管理者評価委員会委員任命の件

生涯学習・文化財室長より説明し、原案のとおり可決した。

議案第23号 富山県いじめ防止対策推進委員会委員任命の件

小中学校課長より説明し、原案のとおり可決した。

5 報告事項

(5) 臨時代理について(令和4年度使用義務教育諸学校用教科用図書採択の件)

小中学校課長より説明した。

4 議事

○報告事項について

報告事項 (3) 関係

〔鳥海委員〕

- ・ 教員採用について、志願者数が減っているということは非常に大変なことだと思うが、富山県としては、県内外の大学生に対して色々働きかけている。3年ぐらい前から働きかけを始めていると思うので、もちろんその効果が出てきて欲しいところではあるが、こういったものはすぐに効果が出るというものではなく、これから出ていくところではないかと思う。できることはかなりされていると思う。あと考えるとすれば、大学生になってから教員になるというような、教員はいいですよ、というような話をするのは少し遅くなってきているかと思うので、中等教育段階、中学校や高校で、是非とも先生になりたいという気持ちを持って大学生になるというような働きかけが少し必要だと思う。その辺もご検討いただきたいと思う。

〔教育長〕

- ・ ありがとうございます。まさにそのような問題意識も持っておりますので、検討していきたいと思えます。

〔町野委員〕

- ・ 志願はネットでできるのか。

〔教職員課長〕

- ・ 残念ながらその辺りも問題であって、県によってはオンライン申請できるが本県はちょっと遅れていて紙媒体で申請受付している。

〔町野委員〕

- ・ 予定はないのか。

〔教職員課長〕

- ・ 現在のままの形ではそのままオンライン申請にできないため、もっと簡便な形の申請様式にして、今後そういったことを検討していきたい。折しもデジタルトランスフォーメーションといった議論が盛り上がり、色々な業務効率化に繋がると思うので、そういったことを積極的に検討していきたい。

〔町野委員〕

- ・ 早めに進めた方がいい。
- ・ 志願者数が減っているのが結果として二つの症状が出ていると思う。一つは採用人数の減少。志願者数が少ないからそれに比例して採用人数が減少している。もう一つはレベルを下げて採用せざるを得ない。この二つはどうなっているのか。

〔教職員課長〕

- ・ 現状、採用予定者数についてはそのまま採用している。倍率はまだ2倍を超えているので、成績や面接等を考慮して、その中で優秀な人を採用している。そのようなレベルではなく、採用を厳しくしたらどうかというご意見もあると思うが、臨時教員を増やすという結果につながり現場が混乱するということにもなるので、採用予定者数については基本的に採用するという方針でこれまで取り組んできた。

〔町野委員〕

- ・ なかなか難しいと思う。現場の方で判断し、そのプロセスを残しておくことである。

〔山崎委員〕

- ・ 富山県だけではなくどの都道府県でも同じように志願者を増やしたいという課題を抱えている。大量退職者がここ数年ずっと続いていて、それを補うために多くの教員を採用しなければならないという背景があり、その一方で志願者が減っている。志願者というと新規学卒者の話が出てくるが、既卒者もかなりの数が受検している。他県の状況を聞くと、新規学卒者の志願者はわずかながら減少しているが、既卒者の志願者が大幅に減っていきいているということがあろう。本県もそのような状況になっているではないか。既卒者で再チャレンジするような働きかけをしたらいいのではないか。

〔鳥海委員〕

- ・ 今の話だが、既卒者は、今まで合格せずに次の年にまた受検しようと思っていた積み残しで結構いたが、このところの大量採用で、その積み残しがなくなってきたというのが現状だというような話は聞いてい

る。それで多分、既卒者志願者が減ってきているという現状になっている。

〔教育長〕

- ・今はどの分野も人を確保するのが難しくなっている面があるのだろうと思う。

報告事項（1）関係

〔大西委員〕

- ・休日部活動の段階的な地域移行に向けて補正予算が組まれたが、このことについて詳しく伺いたい。先ほど、令和5年以降段階的に移行すると言っていたが、これは、いつ頃までに実施される予定なのか。モデル地域はどのような進捗なのか。我々PTAの中ではおそらく中学校の部活もそれに倣って移行していくのではなかろうかという話題が最近出ており、それについても少し話を伺いたい。

〔保健体育課長〕

- ・まず富山県における今回の部活動の地域移行については、実は当初予算で、南砺市・高岡市・朝日町で採択しており、委員会の設置も含めて動いているところである。今回補正予算を組んだのは、国の方で試行的にやることについて今年度に入って二次募集があり、県内でもう一回募集をかけたところ、黒部市が手を挙げられた。黒部市の分として今回補正予算を組んだところである。次に委員からご質問があった令和5年度以降の部活動の地域移行については、中学校の休日の部活動を対象としていて、国は令和5年度から段階的にやるということで、最終的に全中学校がどの段階まですべて移行するかということはまだ示されていない。現段階としては、令和3年度に試行的に全国的に募集をかけたところの優良事例を全国で共有してそれを元に第二段階としてまた試行し、最終的に令和5年度に先行的に進んでいるところから徐々にやっていきたいと思いますという感じで行うと聞いている。

○その他教育行政一般について

〔大西委員〕

- ・コロナワクチンの接種について、射水市のいみず苑の県内最悪の感染があったが、自分でマスクもできない、手を洗ったり他の人と距離を取ったりできない人に対しては、周りがワクチン接種をして守ってあげるのが大切だと感じた。即座に職員や利用者が接種したが、幼・保職員や小中学校の先生にも同じことが言えたのではないのかと子どもを持つ親の中などで話題となった。射水市の中学校の先生の話では、夏休み中には接種が終わると聞いて安心しているところだが、もっと早くに、是非積極的に接種を進めるといいう意見を言えばよかったと思ったところだ。他の市町村はよく分からないが、子どもたちに教えるような、あるいは近くにならざるを得ないような場面もある先生方が率先して接種を受けていただけたらと思う。

〔保健体育課長〕

- ・今定例会で知事部局からワクチン接種についての答弁があったが、基本的にはワクチン接種については市町村の事業として市町村長が誰から接種するか順番を決めている。原則的には65歳以上の方が最優先で接種することになっており、65歳以上の方が7月末までに接種できることを前提として市町村長が次の段階、たとえば60～64歳にするか、保育士さんを優先するか、教員を優先するかということを決めている状況である。ご紹介があったように、市町村によっては小中学校の先生を優先して接種するところが始めているという段階である。当然、小中学校あるいは保育園のように、子どもたちがマスクを嫌うという状況がありクラスターを起こすという可能性もあるので、私たちとしては県立高校の先生を優先して接種していただければというところがある。しかし、市町村長が順番を判断しているので、今後、どのように優先していただけるかということ協議していくことになると思う。

〔教育長〕

- ・市町村によっては、ご自分のところの学校の教員、保育士さんの接種をスタートさせているところがあるということですね。

午後4時5分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。